

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

第2期豊田市まち・ひと・しごと創生推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県豊田市

### 3 地域再生計画の区域

愛知県豊田市の全域

### 4 地域再生計画の目標

本市の人口は、2008年のリーマンショック以降、約42万人を横ばいで推移してきたが、2019年をピークに減少に転じている。国立社会保障・人口問題研究所の2023年推計によれば、2050年には約37万人となることが予測されている。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は1985年の86,904人をピークに減少し、2010年は増加したが、2015年以降再び減少し、2050年には39,836人となる見込みである。一方、老年人口（65歳以上）は1980年の19,022人から2020年には98,307人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も2005年の292,413人をピークに減少傾向にあり、2020年には267,567人となっている。

自然動態をみると、出生数は2008年の4,497人をピークに減少し、2023年には2,694人となっている。その一方で、死亡数は2023年には3,880人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲1,186人（自然減）となっている。

社会動態をみると、2020年及び2021年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、就職期の転入者が大幅に減少したが、2023年には転入者（18,597人）が転出者（18,486人）を上回る社会増（111人）であった。しかし、社会経済の動向に影響を受けやすい本市の特性を踏まえると、今後も見通しが困難な状況にあるといえる。

人口に関する予測に加えて、人生100年時代といわれる中、こどもから高齢者まで全ての人々が元気に活躍し続けられる社会や安心して暮らすことのできる地域社会をつくることが重要な課題となっている。

あわせて、本市は、国内外から人材が集まる産業構造やこれまで築いてきた高水準の都市基盤を生かしながら、将来を展望したまちづくりを進めることで、周辺自治体を含めた圏域の人口維持を図る役割を担っていく必要がある。

これらに取組むに当たり、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- ・基本目標1 しごとづくり
- ・基本目標2 人の流れ・にぎわい・地域への愛着づくり
- ・基本目標3 結婚・出産・子育ての希望を叶え、こどもの成長を支える
- ・基本目標4 人生100年時代をいきいきと暮らせる魅力的な地域をつくる
- ・基本目標5 持続可能なまちづくり

### 【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	成長産業立地奨励金の 申請件数	—	累計 5件	基本目標1
ア	設備投資奨励金の申請 件数	—	累計 30件	基本目標1
ア	新たな事業展開に取り 組んでいるものづくり 中小企業者の割合	32.8%	40.0%	基本目標1
ア	起業・創業支援事業を受 けて市内で起業・創業し た数	—	累計 900件	基本目標1
ア	ものづくり創造拠点	105件	200件	基本目標1

	SENTAN登録者数			
ア	産業用地創出面積	—	累計 48ha	基本目標 1
ア	市内製造品出荷額等に対する付加価値率	21.5%	22.0%	基本目標 1
ア	デジタル化に取り組んでいるものづくり中小企業者の割合	35.8%	50.0%	基本目標 1
ア	「農業経営改善計画」及び「青年等就農計画」の新規認定数	—	累計 60件	基本目標 1
ア	新たな事業展開によって売上が増加した商業者の割合	—	80.0%	基本目標 1
ア	市内林業経営体の林業従事者数	190人	210人	基本目標 1
ア	働きやすい職場づくり推進事業所 新規確認・公表制度確認公表件数	—	毎年度 40件	基本目標 1
ア	働き方改革アドバイザー派遣件数	—	毎年度 100件	基本目標 1
ア	ショートタイムワーク事業利用者数	—	毎年度 200人	基本目標 1
ア	ショートタイムワーカーや高齢者、障がい者等を新たに雇用開始した企業数	—	毎年度 10社	基本目標 1
イ	豊田市内の年間観光入込客数	9,452,224人	1,100万人以上	基本目標 2
イ	豊田市の歴史・文化に対	47.8%	53.0%	基本目標 2

	する愛着や誇りを持っている市民の割合			
イ	関連施設利用者数	414,742人	634,000人	基本目標2
イ	ボランティア活動や博物館パートナー活動参加延べ人数	2,185人	4,600人	基本目標2
イ	(こども・若者が) 地域行事に参加している割合	67.5%	72.5%	基本目標2
イ	地域の活動に参加している市民の割合	54.4%	56.7%	基本目標2
イ	「地域の伝統、文化、郷土芸能又はスポーツを通して地域づくりを推進する事業」を行っているわくわく事業補助金交付団体数	57団体	60団体	基本目標2
イ	市からの情報発信に満足している市民の割合	60.3%	71.0%	基本目標2
イ	拠点のサービス施設のカバー率(徒歩圏800m)	94.2%	100%	基本目標2
イ	拠点における人口密度	106.6人/ha	110人/ha	基本目標2
イ	拠点の低未利用地の活用状況	82.4ha	75ha	基本目標2
イ	20～39歳の転出超過数	98人	0人	基本目標2
イ	重点居住誘導駅周辺の人口(駅周辺1,000m)	139,299人	145,000人	基本目標2
イ	「今のところに住みたい」と思う山村地域の住	64.0%	69.5%	基本目標2

	民の割合			
イ	山村地域への年間転入・ 転居者数	460人	510人	基本目標 2
イ	山村地域からの年間転 出・転居者数	573人	510人	基本目標 2
イ	集落活動のサポートを 行うボランティア登録 数(とよたの山里応援隊 登録数)	69人	360人	基本目標 2
イ	公共建築物の延床面積( 総量)	1,714,715㎡	1,714,715㎡ 以下	基本目標 2
イ	公共施設等の老朽化に よる重大事故数	0件	0件	基本目標 2
イ	住民主体の移動サービ スに取り組む団体数	5団体	10団体	基本目標 2
イ	中心市街地居住人口の 社会増減数(16町)	71人	194人	基本目標 2
イ	中心市街地1日当たり(5 時~24時)の歩行者通 行量(休日12地点)	22,626人	22,626人	基本目標 2
イ	中心市街地での創業者 数	8件	14件	基本目標 2
イ	1日あたりの公共交通 利用者数	79,618人	91,000人	基本目標 2
イ	渋滞等による時間ロス 率	27.6%	24.5%	基本目標 2
ウ	運動やスポーツをする ことが好きな児童生徒 の割合	小学生:90.9 % 中学生:84.0	小学生:90.9 % 中学生:85.4	基本目標 3

		%	%	
ウ	文化芸術に興味を持っている小中学生の割合	小学生：66.4 % 中学生：51.5 %	小学生：71.1 % 中学生：54.0 %	基本目標3
ウ	ものづくり・科学に興味を持っている小中学生の割合	小学生：62.8 % 中学生：65.9 %	小学生：63.8 % 中学生：73.9 %	基本目標3
ウ	自分の意見が言えていると感じているこどもの割合	小学4～6年生：77.2% 中学生：67.5 %	小学4～6年生：79.7% 中学生：70.0 %	基本目標3
ウ	自分と関わりのあるこどもの意見を尊重している市民の割合	66.6%	70.0%	基本目標3
ウ	地域の大人が勉強やスポーツを教えてくれたり、自分たちを見守ってくれたりしていると感じると回答した児童生徒の割合	小学生：83.7 % 中学生：68.2 %	小学生：88.7 % 中学生：73.2 %	基本目標3
ウ	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと回答した児童生徒の割合	小学生：83.3 % 中学生：78.6 %	小学生：86.9 % 中学生：78.7 %	基本目標3
ウ	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと回答した	小学生：80.3 % 中学生：76.6	小学生：81.9 % 中学生：80.3	基本目標3

	児童生徒の割合	%	%	
ウ	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていると回答した児童生徒の割合	小学生：81.7 % 中学生：75.6 %	小学生：84.2 % 中学生：78.6 %	基本目標3
ウ	授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、先生が分かるまで教えてくれていると思う児童生徒の割合	小学生：87.6 % 中学生：82.5 %	小学生：87.9 % 中学生：84.9 %	基本目標3
ウ	教員が授業にICTを活用して指導する能力	小学生：85.4 % 中学生：82.1 %	小学生：87.8 % 中学生：84.9 %	基本目標3
ウ	「出産、子育てがしやすいまち」と思う子育て世代の割合	—	60.0%	基本目標3
ウ	子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人や場所がある市民の割合	90.8%	90.8%	基本目標3
ウ	結婚願望のある若者の割合	75.7%	82.9%	基本目標3
ウ	若者の婚姻率	36.2%	38.2%	基本目標3
ウ	こども園等の待機児童数	0人	0人	基本目標3

ウ	放課後児童クラブの待機児童数	0人	0人	基本目標3
ウ	0～2歳児定員	2,445人	2,544人	基本目標3
ウ	未就園の0～2歳児預かり受入定員	2,400人	12,960人	基本目標3
ウ	孤独を感じることがない小学生（4～6年生）の割合	70.9%	74.3%	基本目標3
ウ	孤独を感じることがない中学生の割合	65.1%	68.4%	基本目標3
ウ	こどもの権利が尊重されていると感じる中学生の割合	73.1%	76.4%	基本目標3
ウ	こどもの権利が尊重されていると感じる小学生（4～6年生）の割合	78.1%	81.5%	基本目標3
エ	日ごろの生活の中で生きがいを感じている市民の割合	72.7%	75.4%	基本目標4
エ	地域の活動に参加している市民の割合	54.4%	56.7%	基本目標4
エ	NPO・ボランティア活動などに参加している市民の割合	18.9%	19.7%	基本目標4
エ	文化芸術活動（鑑賞・見学を除く）を行っている市民の割合	41.3%	46.4%	基本目標4
エ	スポーツを「支える」活動をした市民の割合	10.9%	15.5%	基本目標4

エ	(こども・若者が) 地域行事に参加している割合	67.5%	72.5%	基本目標 4
エ	自治区加入率	78.0%	78.0%	基本目標 4
エ	近所とのつきあいがある市民の割合	92.1%	94.4%	基本目標 4
エ	自分にはつながりがあると感じている市民の割合 ※1	59.3%	63.0%	基本目標 4
エ	家や学校、職場以外で自分らしく過ごせる「第3の場所」がある市民の割合 ※1	54.5%	60.0%	基本目標 4
エ	誰もがわかりやすいような伝え方や表現をしていると思う市民の割合	60.2%	65.0%	基本目標 4
エ	誰もが意思を尊重されていると思う市民の割合	54.7%	60.0%	基本目標 4
オ	食料、飲料水の備蓄を行っている市民の割合	65.6%	70.0%	基本目標 5
オ	家具の転倒防止対策を行っている市民の割合	58.7%	60.0%	基本目標 5
オ	共助の取組が活発な自主防災組織の割合(災害に対する5つの取組をしている組織の割合)	48.7%	55.0%	基本目標 5
オ	避難所機能強化を実施	94か所	108か所	基本目標 5

	済みの避難所数（災害用便槽、停電対策、防災倉庫、通信対策）			
オ	重要給水施設管路の耐震化率（災害拠点病院等）	76.6%	80.0%	基本目標 5
オ	境川・猿渡川流域総合治水対策 流域貯留施設整備の進捗率	72.6%	100%	基本目標 5
オ	農地の利用集積面積	2,310ha	2,360ha	基本目標 5
オ	健全な人工林の割合	54.1%	68.1%	基本目標 5
オ	地籍調査実施面積	2.50km <sup>2</sup>	5.42km <sup>2</sup>	基本目標 5
オ	野生鳥獣による農作物被害面積	51.03ha	48.93ha	基本目標 5
オ	住宅用太陽光発電（10kW未満）の導入量	94MW	104MW	基本目標 5
オ	新車販売台数に占める次世代自動車（自家用車）の割合	62.1%	86.0%	基本目標 5
オ	プラスチック使用製品廃棄物の「分別適正率」	21.7%	24.3%	基本目標 5
オ	脱炭素に取り組む事業者の割合	31.1%	43.8%	基本目標 5
オ	事業用太陽光発電（10kW以上）の導入量	182MW	220MW	基本目標 5
オ	新車販売台数に占める次世代自動車（商用車）の割合	16.6%	28.1%	基本目標 5
オ	市役所のCO <sub>2</sub> 排出量	6.0万t-CO <sub>2</sub> /	3.7万t-CO <sub>2</sub> /	基本目標 5

		年	年	
オ	水素社会推進に関する 実証、検討ワーキング等 の実施件数	—	累計 5件	基本目標 5
オ	公用車FCV導入件数	—	累計 2台	基本目標 5
オ	新エネ活用促進補助金 のうち水素関連補助件 数	—	累計 5件	基本目標 5
オ	水素社会プロモーション イベント実施件数	—	累計 10件	基本目標 5

※1 2026年度以降に実施する事業の効果検証に活用。

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する  
特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

第2期豊田市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業

ア しごとづくり事業

イ 人の流れ・にぎわい・地域への愛着づくり事業

ウ 結婚・出産・子育ての希望を叶え、こどもの成長を支える事業

エ 人生100年時代をいきいきと暮らせる魅力的な地域をつくる事業

オ 持続可能なまちづくり事業

#### ② 事業の内容

ア しごとづくり事業

産業構造の大転換の中で、人口吸引力の維持・創出に向け、次世代モ  
ビリティを始めとする次代につながる産業の拠点として、ものづくり産

業をリードするとともに、新たな産業を創出する事業

産業振興に必要な人材の確保・育成、デジタル技術の活用等による労働環境の改善や生産性の向上、女性を始めとする誰もが活躍できる多様な働き方・仕事を創出する事業

**【具体的な事業】**

- ・ミライを支える産業の創出と育成
- ・市内事業者の持続可能性の向上に向けた取組の支援
- ・多様な人材の活躍と柔軟な働き方を実現する人材戦略への支援 等

**イ 人の流れ・にぎわい・地域への愛着づくり事業**

豊田市ならではの魅力を発信し、関係人口づくりや定住を促進するため、山村部を始め地域資源の磨き上げや都市部の機能向上等を進める事業

地域への愛着形成と多様なライフスタイルの実現に向けた豊田市らしい暮らしの価値を創造・発信する事業

**【具体的な事業】**

- ・「クルマのまち」の更なる魅力の向上
- ・まちの歴史・文化・芸術や自然等をミライにつなぐ取組の推進
- ・都市部の利便性の高い暮らし環境の充実
- ・山村部の持続可能な暮らしの仕組みづくり 等

**ウ 結婚・出産・子育ての希望を叶え、こどもの成長を支える事業**

希望する誰もが安心して結婚や妊娠、出産、育児ができる環境を創出するため、自分の望む家族の在り方やライフスタイルが実現できる地域をつくる事業

予測が困難な変化の激しい社会において、豊田市のミライを担うこどもがこども同士や多世代とのつながりの中で、ミライを生き抜く力と自己肯定感を養い、希望する生き方・暮らし方を選択できる地域をつくる事業

**【具体的な事業】**

- ・地域資源を生かした「遊び・学び・体験」の機会の充実
- ・自ら考え判断する力を育む教育の推進

- ・結婚・出産・子育て支援の充実
- ・保育ニーズへの対応と良好な幼児教育・保育環境づくり 等

## エ 人生 100 年時代をいきいきと暮らせる魅力的な地域をつくる事業

人生 100 年時代といわれる中、つながりを通じて、誰もが自分らしく豊かな人生の実現に向けた、多様な学び合いの機会の創出を図るとともに、全ての人がいきいきと活躍し続けられる地域をつくる事業

### 【具体的な事業】

- ・大人の学び・活躍を支援する機会の充実
- ・地域活動の持続可能性の向上
- ・多様でゆるやかな「つながり合い」の創出の促進 等

## オ 持続可能なまちづくり事業

激甚化・頻発化する自然災害や気候変動の影響による自然環境の変化に対応するため、安全・安心なまちづくりや脱炭素社会の実現に向けた事業

### 【具体的な事業】

- ・地域力発揮による防災力の強化
- ・脱炭素社会の実現に向けた市民の行動の促進
- ・水素社会の実現に向けた取組の推進 等

※ なお、詳細は豊田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2030 のとおり。

## ③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4 の【数値目標】に同じ。

## ④ 寄附の金額の目安

13,700,000 千円（2025 年度～2029 年度累計）

## ⑤ 事業の評価の方法（P D C A サイクル）

毎年度 10 月頃、外部有識者等による効果検証を行い、検証終了後、速やかに本市公式 W E B サイト等で公表する。

## ⑥ 事業実施期間

2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日まで

## 6 計画期間

2025年4月1日から2030年3月31日まで